

祥洲 / 墨翔会 Sho展

伝統書を基盤に現代の書を探求する書家 祥洲が、空海で知られる東寺や羅城門史跡近くに拠点を置き、1977年「祥洲書院 / 墨翔会」を創設（本年度44周年）。その活動の中核をなすのが会報誌「翔 Sho」です。

1992年、創刊準備号を経て刊行開始。日本書道界での段級認定を主体とした一般的な読書誌とは一線を画し、段級掲載を廃止。個性を尊び、古典臨書・実用書・近代詩文書・一文字書・デザイン書・墨の抽象など幅広く自由な書表現を実践しています。また早くからデジタル編集を導入。印刷製本以外の全工程を祥洲自身が手掛け、2010年には日本書道界初となるデジタル版同時発行を実現、常に進化を目指しています。

2021年、将来を見据えて祥洲が一線を退き、新体制へと移行。2022年には創刊30周年を迎えます。

この会報誌「翔 Sho」新体制発足を記念して本展を開催いたします。

祥洲最新作「然（天上の神へ COVID-19）/ Inspired by the sound of E.S.T.」

世界中で多くの命が失われ、日常を一変させた新型コロナウイルス。アーティストとして出来ることはこの状況を作品として残すこと。例えば「疫病退散」と書けば良いのかもしれませんが。しかし意味に頼らず、漢字を使わない文化圏の人々にも感じてもらいたい。半年間に及ぶ試行錯誤の末、3点の「然」に辿り着きました。

また本作は小学校図画工作教科書に採用された祥洲の代表的なシリーズ作品「音楽に触発されて」（2008～）の最新作でもあります。

2008年、事故により44歳で他界したピアニスト、エスビョルン・スヴェンソン。彼のピアノ・トリオ「E.S.T.」は、ジャズの伝統的なスタイルから徐々にクラシックやロックの要素を加えてジャンルを超越。最後のアルバム「Leucocyte」では更なる新境地を切り拓こうとしていました。（Leucocyte…細菌などから身体を守る白血球）

新型コロナウイルス、そして革新的な挑戦を続けた「E.S.T.」に触発された新作「然」シリーズ3点。書というジャンルに囚われることなく御覧いただければ幸いです。

2021.6.8(火)～13(日) 12:00～18:00 (6.13のみ17:00迄)

ギャリエヤマシタ2号館1F (京都寺町三条上る西側 / tel:075-231-6505)

※ご来場の際は感染症対策にご協力お願いいたします。

墨翔会 / SHO Art-Office / 墨集団 翔Sho 主幹

祥洲 / Shoshu info@shoshu.jp



祥洲公式サイト

京都府	京都府	京都府
御池通	堀下駄 京都府教育会	京都府
ギャリエ・ヤマシタ アート&フレーム ギャラリー	2号館	
三楽通	かに運葉	
N	生町通	新橋通
		河原町通



会報誌 翔Sho 副編集人

五十棲 環



会報誌 翔Sho 副編集人

奥田 百恵



会報誌 翔Sho 校閲

片岡 正克



会報誌 翔Sho 副編集人

川尾 朋子



会報誌 翔Sho 優秀出品者

櫻井 史乃



会報誌 翔Sho 優秀出品者

西岡 祐樹



会報誌 翔Sho 副編集人

HILOKI TANAKA



会報誌 翔Sho 編集人/DTP

福田 匠吾



墨翔会 / 会報誌 翔Sho 代表

祥洲